

令和5年度 土砂災害防止功労者表彰者 一覧

【個人】

推薦団体	氏名	表彰基準	功績概要
富山県	伊東 尚志 (前上市町長)	(3)土砂災害防止思想の普及 (4)土砂災害防止対策事業の推進	平成9年から平成29年までの20年間にわたり、上市町長として町民等の安全を確保するため砂防事業等の促進に努めた。平成24年度には町が主体となり、地元、県、町等からなる協議会により、県内初となる「大岩川里山砂防整備計画」を策定し、堰堤の整備や山腹の保全、防災教育等を一体的に行い、自然豊かで災害に強い地域づくりに取り組んだ。 富山県治水砂防協会会長として、砂防技術の向上や砂防事業の啓発を図るため、砂防技術講習会等を積極的に展開するとともに、他の砂防関係団体が主催する砂防防災講演会等の諸活動への支援に努め、県内の砂防関係事業の促進に大きく貢献した。 上市町長を退任後も、富山県森林組合連合会長として、災害に強い森づくりを強力に推進し、流木被害の未然防止に向けた適切な森林整備と流木捕捉機能を備えた治山ダムの整備、渓流内での流木危険木の除去に取り組むなど、流域治水による土砂災害対策に取り組んでいる。 土砂災害対策に関するシンポジウムにも積極的に参加し、行政関係者等との意見交換を行い、土砂災害対策及び防災教育の充実等に向けた取り組みを現在も続けている。
奈良県	角谷 喜一郎 (前野迫川村長)	(3)土砂災害防止思想の普及 (4)土砂災害防止対策事業の推進	平成23年8月31日から9月4日にかけての台風12号接近に伴い、奈良県吉野郡野迫川村では猛烈な雨が降り続いた。この記録的豪雨により、村内各所で道路崩壊等の甚大な被害が発生したが、特に北股地区では深層崩壊により大量の土砂が流出し、人家が複数倒壊した他、堰止湖の形成、災害対策基本法に基づく警戒区域の設定など記録的な災害(紀伊半島大水害)となった。 野迫川村長として災害対策本部を設置した9月3日から昼夜を問わず本部に留まり、住民への適切な情報発信や国・県等関係機関との調整、役場全体の指揮に尽力し、住民の生命を守ることに多大な貢献があった。 災害発生以来、10年以上にわたり村の復旧・復興に取り組む中で、災害時の住民の的確な避難を重視し、避難態勢の整備や防災情報の発信に取り組んだ。村内の危険区域や過去の災害情報をまとめた防災マップを作成し全村民に配布したほか、土砂災害に関するパネル展の実施や国土交通省紀伊山系砂防事務所が行う村内小中学校での防災教育への支援など住民への啓発活動に努めた。 国土交通大学校他各所で講演を行い、自らの体験に基づいた災害からの復旧復興における課題を広く発信している。
広島県	海堀 正博 (広島大学名誉教授)	(3)土砂災害防止思想の普及 (7)研究、発明	広島大学において、永年にわたり砂防学にかかる多数の研究業績を上げたほか、地域住民の防災活動にかかる草の根支援や指導など地域に根ざした土砂災害対策に尽力し、地域防災における大きな成果をあげた。 特に、フィールド調査を中心に多くのデータを蓄積し、崩壊や土石流等の集中発生の誘因となる豪雨について、雨量だけでなく降雨パターンの重要性を指摘するなど多くの論文を学術誌に投稿している。これらの研究成果は高く評価され、他の関連する研究や行政等による防災実務において広く反映、活用されることで、実学としての砂防学の発展に寄与している。 国土交通省や広島県を中心に数多くの委員会等に参加し、最新の研究成果や高度な知見をもとに、技術的、学術的な面から的確な助言、指導を行うなど砂防行政においてより効果的な施策を立案、展開するため多大なる貢献があった。 大学において質の高い教育を実践し、これにより多くの優秀な砂防技術者を輩出することに貢献した。その他、各種シンポジウムや学術的な会議において基調講演を行うとともに、メディアにも積極的に出演し土砂災害にかかる講義、説明を行うなど講演や広報活動を通じて若手研究者や技術者への技術伝承にも努めている。 平成30年から令和2年までは、公益社団法人砂防学会会長として全国各地で発生した土砂災害に対する現地調査等を主導し、特に、平成30年7月豪雨災害においては、5つのチームからなる調査団を編成し緊急調査を行うとともに、これら調査に基づく緊急提言をとりまとめ、国土交通省に対して技術的な提言を行っている。
北海道開発局	浜田 哲 (前美瑛町長)	(3)土砂災害防止思想の普及 (4)土砂災害防止対策事業の推進	大正15年の噴火で発生した融雪型火山泥流により甚大な被災を被り、その後も周期的に噴火を繰り返し近年再度噴火が懸念されている十勝岳山麓に位置する美瑛町において、町長として隣接する上富良野町や町内外の各防災関係機関と密接な協力を図り十勝岳噴火など自然災害に備える地域防災体制の充実に尽力した。 十勝岳火山防災協議会構成員として、住民参加による「十勝岳噴火総合防災訓練」を毎年冬季に実施するなど融雪型火山泥流に備えた地域の体制づくり、洪水・土砂ハザードマップや火山・噴火ハザードマップ等の作成、地域の小中学生を対象とした防災教育の積極的な推進に取り組んでいる。 石狩川上流砂防事業促進期成会会長として、石狩川上流地域の直轄及び補助砂防事業等の促進に大きく尽力し、平成23年には十勝岳で行われた火山砂防フォーラム開催地の代表として、火山防災の啓発活動にも大きく貢献した。 平成28年8月20日から23日にかけて、台風の影響により、橋梁の崩落等による町内交通の寸断、浄水場の送水管破損による市街地への送水困難等の状況に陥り自衛隊の災害派遣が行われた。公共施設被害や農業被害など多くの被害が発生したが、迅速な避難情報の発令や適切な防災活動などにより、475人の町民が一時避難したが人的被害を防いだ。 令和4年1月に新規認定された「十勝岳ジオパーク」に関して、火山と共生する地域づくりを目指し、その構想段階において火山地域における地域活性化に取り組むなど、地域防災力の向上や地域振興への多大なる功績をあげた。

推薦団体	氏名	表彰基準	功績概要
東北地方整備局	佐久間 新平	(1)生命又は身体の保護 (3)土砂災害防止思想の普及	令和元年10月11日から13日にかけて台風19号(令和元年東日本台風)に伴い豪雨が降り続き、宮城県丸森町筆甫では24時間雨量が587.5mm、総雨量は607.5mmを記録した。このため、丸森町では上流域で土石流被害、下流域では土砂・洪水氾濫被害が発生し、死者・行方不明者12人、全壊115戸、半壊・一部損壊1,227戸の被害が発生した。 阿武隈川の二次支川五福谷川が流れている向原地区にて、10月11日の夕方から気象情報に注視し、上流域の雨が強くなり始めた同日18時頃に災害の危険性があると判断し、付近住民全9世帯に避難を呼びかけ、周辺の高台にある集会所等へ避難を誘導した。その後の20時頃には向原地区を含め、五福谷川の広い範囲で土砂・洪水氾濫が発生した。氏の的確な判断と行動は、丸森町の過去災害の経験、さらには日常において地区行事を積極的に行うなど、地域のつながり、絆を大切にしてきた賜でもあり、最も土砂・洪水氾濫の被害が顕著であった向原地区において死者0人と尊い命を救ったものである。 魅力ある遊砂地の整備を目的とした五福谷川ワークショップへ参加し、令和4年3月には丸森町長への提言書手交や、丸森町復興推進委員会の委員、さらに令和4年に実施された令和元年東日本台風の記憶を語り継ぐための展覧会への協力、テレビメディアへの出演など住民代表として復興活動に大きく尽力している。
東北地方整備局	六戸 克美	(1)生命又は身体の保護 (3)土砂災害防止思想の普及	令和元年台風19号(令和元年東日本台風)に伴う豪雨により多大なる被害が発生した宮城県丸森町において、多数の破堤被害が発生した五福谷川と内川の合流付近である上地地区にて、早くより雨量の経過に注視し、周辺住民への避難の呼びかけ、要配慮者宅には自ら足を運ぶなどの行動により、周辺地区の人的被害の回避に貢献した。 長く仙南地域広域行政事務組合の消防職員を務め、宮城県仙南地域の防災に関する意識向上・普及啓発に尽力してきたほか、令和元年東日本台風の災害の教訓を後世に残すことや地域の防災力を高めるため、教育機関での講演や令和4年丸森地区砂防シンポジウムのパネリストなどの各団体が主催するイベントへの出演及び令和元年東日本台風に関する展覧会への協力を通じ、町外の方々も含めた幅広い世代に対して災害伝承や復興の情報発信などの土砂災害防止意識の普及啓発に尽力している。 丸森町が台風第19号による災害からの復旧及び復興の推進に関する意見を町民の代表等から聴取するため設置した「丸森町復興推進委員会」において委員を務め、復旧・復興に向けた計画立案のほか、復旧・復興を推進するために必要な各種地元協議の代表窓口として尽力し、丸森町復旧・復興計画の策定及びその進捗の推進に活かされている。
関東地方整備局	室伏 徹 (山梨県考古学協会事務局長)	(3)土砂災害防止思想の普及	平成18年度砂防学会シンポジウム特別講演における講演をはじめとして、富士川砂防事務所で実施したキャンプ砂防や、令和4年1月に実施された土木遺産講演会など、継続的に土砂災害防止に関する講座や講演会等にて、日川砂防事業(勝沼堰堤・日川水制群)の成り立ちと勝沼ワイン発展への貢献について講演を行っているほか、同様のテーマで多数の論文の投稿を行っている。 土砂災害防止を推進する上で、砂防事業の重要性を知ってもらうことは必要不可欠であるが、砂防事業による直接的な効果を感じにくい都市部等で生活する者に対しては、その重要性を実感してもらうことが難しいと考えられる。この課題に対し、ワイン造りという地域産業の発展と砂防事業の関連を分かりやすく解説する氏の講演などの活動は、他に例を見ない切り口となっている。山梨県が日本のワイン生産発祥の地であり、勝沼ワインが世界的にも高い評価を得ていることから、活動の影響力は非常に高いものであり、土砂災害防止思想の普及に大きく貢献している。

【団体】

推薦団体	団体名	表彰基準	功績概要
長野県	千曲市桑原振興会	(5)砂防設備の美化、清掃	平成12年4月から現在まで千曲市桑原地区内にある荏沢川の砂防施設の維持管理を継続的にやっている。平成21年3月16日には「砂防等施設維持管理ボランティア活動支援事業確認書」を長野県千曲建設事務所長と取り交わし、草刈りや清掃活動を地域ぐるみで実施するなど、施設の維持管理に尽力している。 特筆すべきは、明治時代に建造されたコンクリートを使わない空石積の石堰堤が現存し、その水通し部には大きな石を用いたアーチ形状を成しており、明治初期の石堰堤の特徴を有していることから、国土の歴史的景観に寄与するものと認められ、平成21年1月8日に国の登録有形文化財に指定されている。指定を受けて以降、訪れる人が多くなっており、このような歴史的価値ある建造物である石堰堤周辺の景観を守ろうとする活動や毎年実施されている近隣小学校の学習会などの見学が安全にできるように環境整備への取り組み、また振興会だよりによる砂防施設に関する情報発信などを通じて土砂災害防止の啓発に寄与している。

推薦団体	団体名	表彰基準	功績概要
新潟県	村上市小岩内区	(1)生命又は身体の保護	<p>令和4年8月4日未明、新潟県村上市小岩内地内において、豪雨を主因とする土砂流出が発生し、流出した多量の土砂、流木は下流約500mまで押し寄せ、家屋6棟が全半壊、市道埋塞、田への土砂流出などの未曾有の大被害を受けた。</p> <p>3日夜の避難指示発令を受け、区長、防災士2名及び消防団10名は地区内の公会堂に集合し対応を検討した。村上市が指定する避難所に通じる市道が土砂崩落により通行止めとなっていた状況から、地区住民に防災無線で地区外に出ず公会堂へ避難するよう呼びかけた。また、雨音が大きかったことや夜間であったことから防災無線に気づいていない住民もいる可能性があったため、防災士、消防団は、戸別に訪問し、速やかな避難を呼びかけるとともに、体が不自由で避難に時間を要す高齢者等を援助しつつ、住民全員を公会堂や高台へ避難させた。その後地区内を流れている小岩内大沢川が水位上昇し、水位上昇に伴い石がゴロゴロと流れる音が聞こえたため、下流にある公会堂は危険と判断し地区の高台に再避難した。再避難の後に土砂、流木が人家や一時避難していた公会堂に到達したが、区長始め防災士、消防団の適切な判断や迅速な避難行動により、死者、行方不明者が1人もいなかった。</p> <p>当該地区は、昭和42年の新潟県北部全域を襲った羽越水害を経験しており、当時の状況を踏まえ、今回の雨の降り方が尋常でないと判断し、早めに避難したことにより人的被害を防いだ。</p> <p>地区では市の防災訓練時に、「声を掛け合って避難する訓練」、「避難ルートの再確認」、「全員避難済みかどうか確認」を併せて行っており、日頃から危機管理意識を高めている。</p>
兵庫県	一般社団法人砂防の父赤木正雄展示館	(3)土砂災害防止思想の普及	<p>内務省技師として大正、昭和に全国で砂防工事を指揮し、その生涯を砂防の発展に捧げ、「砂防の父」と称される赤木正雄の業績とともに、砂防の重要性を広く社会に発信することを目的に設立した。展示館は赤木正雄の生家の作業部屋を活用したもので、地域の防災拠点の役割を果たした旧家の防災施設と一体的に土砂災害防止について深く学べる施設となっており、平成25年の展示館の開設以来多数の見学者を受け入れ、土砂災害の防止思想の普及に尽力している。</p> <p>地元小学校の防災学習、環境学習へ支援し、児童の防災意識、郷土意識の醸成に務めているほか、関係団体と連携したパネル展、講演会等の開催や講演活動を通じて土砂災害防止に向けた普及啓発に大きく貢献している。</p> <p>展示館の来館者は、兵庫県内はもとより広く県外に及び、また見学を契機とした調査研究で小学児童、大学生が表彰されるなどの成果が上げられているほか、TV放映や赤木正雄を題材とした講談の作成・披露など、当該団体の永年にわたる活動により、土砂災害防止の重要性が様々なメディアを通じて幅広く発信されている。</p>